

平成 24 年度 奈良市 21 健康づくり推進評価委員会

開催日時	平成 24 年 8 月 2 日 (木) 午前 9 時 30 分から 11 時 10 分まで	
開催場所	奈良市保健所・教育総合センター(はぐくみセンター)9 階会議室	
議題	1 「奈良市 21 健康づくり」最終評価報告書について 2 次期健康づくり計画の国の方針と市の方針について 3 今後について	
出席者	委員	佐久間会長、酒井副会長、青山委員、小西委員、永田委員、中野委員、神田委員、(河合委員代理)福岡氏、(吉田委員代理)山口氏、(北谷委員代理)亀井氏 【計 10 名出席】
	事務局	大西次長、大嶋課長、武久課長補佐、嵯峨課長補佐、風都祁保健センター所長、辻係長、永松係長、藤本、乾、高橋、江島
開催形態	公開(傍聴人なし)	
担当課	保健所 健康増進課	

議事の内容

●議事進行(佐久間会長)

前回委員会 3 月 2 日に最終評価報告書案の作成にあたり、委員の皆様にはいろいろご意見をいただきました。そのご意見に従って、今回最終報告書案として提出されています。本日はその内容についてご意見が反映されているかをご確認いただきたいと思います。

1 「奈良市 21 健康づくり」最終評価報告書について

「奈良市 21 健康づくり」の推進について、【資料1】【資料2】を基に総括評価と今後の課題について事務局から説明。

〔質疑応答〕

佐久間委員	「奈良市 21 健康づくり計画」推進の総合評価と今後の課題について事務局から報告がありました。評価指標の目標達成及び改善項目は全体の 7 割強であったとのことですが、今後の課題も含めてご意見等、各委員からお願いいたします。
酒井委員	質問ですが、評価指標の「禁煙登録医療機関数」は「禁煙指導」をしているということですか？
事務局	保険適用で禁煙治療が実施できると登録されている医療機関数です。
小西委員	最終評価報告書案の 1 ページの図において、健康を支援する環境づくりの矢印が下を向いているのはなぜですか？
事務局	「奈良市 21 健康づくり」の策定と推進では、ヘルスプロモーションという理念を採用していますが、個人が健康づくりに取り組むこと、周りの人が支援すること、そして、健康づくりに取り組みやすい環境整備があります。矢印は、健康づくりそのものを下げるのではなく、健康づくりに取り組みやすいように環境づくりとして、進むべき坂道の角度を下げるという意味で矢印が下を向いています。
小西委員	この図は奈良市独自のものですか？全国的なものですか？
事務局	ヘルスプロモーションの考え方とそれを示したものは全国的なもので、計画策定時に作成した「奈良市 21 健康づくり」計画書にも記載しております。
佐久間委員	健康を阻害する要因を下げていかないといけないということです。策定当初から使

	われている資料ですね。
小西委員	健康づくりの矢印が下を向いているのは、マイナスのイメージに思えたので、表現方法を変えることができないかと思いました。
事務局	次期計画では、わかりやすい表現に気をつけたいと思います。
酒井委員	確認です。最終評価報告書案3ページの喫煙と飲酒の課題について、「たばこを吸わない人を増やしましょう」、「適正な飲酒を心がけましょう」の区切りが19歳以上からになっていますが、それでよいのかな？
事務局	計画では19歳未満、20歳以上と青年期を分けております。記載の上で抜けておりました。申し訳ございません。
中野委員	「メタボリックシンドロームの該当者・予備群」について腹囲かBMIのどちらを基準にしていますか？
事務局	腹囲もしくはBMI25以上とどちらも切り口としてなっております。
酒井委員	メタボは腹囲とBMIだけではないよね？
事務局	腹囲もしくはBMI25以上、それに加えて血圧、脂質、血糖、喫煙など、メタボリックシンドロームの診断基準に従ってのものです。
酒井委員	評価項目が%だけで示されていますが、母数を書き足すことはできませんか？どこかに数字で示しているとわかりやすいのですが。数字もあわせて入れると、非常に表としてはわかりにくくなるので、致し方ないかもしれませんが。
佐久間委員	資料の価値からいえば、ほしいところです。数字は資料として、保存はされていますよね。
事務局	はい、ございます。
佐久間委員	先ほどの報告が総合評価の概論になります。それが、最終評価報告書案の68～70ページに文章化されています。 それと、最終評価報告書案を事務局からいただいて、もう少し特徴を示すことができないかと私が作った資料がこのスライドになります。達成できなかった項目がどれくらいあるのかを9領域ライフステージ別で単純集計をして表に示したものです。乳幼児期では生活リズムと事故について親の課題があるかと思われます(達成できなかった項目の割合:生活リズム56.3% 事故33%)。青年期では肥満と食生活(達成できなかった項目の割合:45%)、壮中年期に関しましては歯周病・むし歯予防(達成できなかった項目:66.7%)、高齢期に関しましては歯周病・むし歯予防(達成できなかった項目:60%)、若干の筋力低下があるといったことを、次年度以降の課題として計画されたらよいかと思います。私からの追加としては以上です。
青山委員	歯周疾患の罹患率はその数字だけみれば高く思いますが、実際問題は優秀な数字です。30歳代で約8割の人が歯周疾患にかかっていますから、指標としても目標達成で◎がついていてよいかと思います。採用されているデータは奈良市の節目検診としての歯周疾患検診で、受診者は限られますが、目標値をゼロにすることはまず不可能なことで、歯科に関してはよく頑張られたと高い評価をしております。また、奈良市全体の評価としてはこれでよいと思いますが、地域によってもすぐくデータが違うと思います。歯科医師会も東班(旧市街地)、中班(西大寺周辺)、西班(学園前周辺)と分かれていますので、できれば地域別にデータをまとめていただければとても参考になりますので、よろしくをお願いします。
佐久間委員	奈良市として今後の検討事項ですね。
酒井委員	最終評価報告書案77ページの今後の課題と方針に「個人の支援に留まることなく家族や地域全体に」とありますが、壮中年の方に家族・地域全体とは壮中年を具

事務局	体的にはどの年代と捉えて、実際どんな風な取り組みを想定していますか？ 壮中年は 40 歳以上 65 歳までを想定としています。国の計画でも強く出されているのが「職域との連携」とあります。行政からの働きかけと企業からの働きかけの双方が必要だと思います。
酒井委員	働いている方への地域からの取り組みは非常に難しく、日本の仕事のシステム上も考慮すると、なんとか職場の方から何かしら働きかけてもらうことを考えていってほしいと思います。
佐久間委員	まさにそのとおりで、今の経済状態が続けば、さらに非常に難しいことだとは思いますが、働きかけとしてはやはり必要ですね。 では、他にご意見がなければ、ただ今頂いた意見を若干の修正を加えて、最終評価報告書としたいと思いますが、案を削除してよろしいでしょうか？ (委員相違なし) ありがとうございました。議題の一番目は終わりました、次の議題に移ります。

2 次期健康づくり計画の国の方針と市の方針について

次期健康づくり計画の国の方針と奈良市の方針について事務局から説明します。国は、21 世紀のわが国において少子高齢化や疾病構造の変化が進む中で、生活習慣病及び社会環境の改善を通じて、子どもから高齢者まで、すべての国民が、共に支え合いながら希望や生きがいを持ち、ライフステージに応じて、健やかで心豊かに生活できる活力ある社会を実現し、その結果、社会保障制度が持続可能なものとなるよう、次期健康づくり計画の基本的な方針として、次の 5 点を掲げました。これらに、奈良市の課題を合わせて次期計画を策定してまいります。がん、循環器疾患、糖尿病及び慢性閉塞性肺疾患は、わが国では生活習慣病として位置付けられています。これらに対処するため、個人は健康診査を受診し、自己の健康管理を推進することは勿論ですが、将来を見据えた対策として、治療が必要になる前から、生活習慣の改善による一次予防に重点を置いた対策が必要です。奈良市では、大人の「栄養バランスに気をつけて食事をする割合」「BMI25 以上の人の割合」「HbA1cの要指導・要医療の割合」、子どもの「肥満児の割合」「外遊びをしている児の割合」「家族で楽しく食事をしている児の割合」が悪化しており、生活習慣病の因子が幼児期から現われています。また、「妊婦の喫煙率」「育児期間中の受動喫煙率」は目標達成せず、将来を担う次世代の健康を支えるための女性や子どもの健康増進も課題です。基本的な生活習慣や健康観は、乳幼児期から家族単位で受容・形成されることから、家族で生涯を通じた取り組みが必要です。これまで奈良市で協働してきた、ボランティアや関係機関との連携をさらに強化し、地域や世代間の相互扶助など、地域や社会の絆、職場の支援等が機能することにより、時間的または精神的にゆとりのない世代や、健康づくりに関心のない人も巻き込んで社会が相互に支え合いながら環境を整備していくことが重要です。奈良市では、健康づくりをまちづくりの一環と位置づけ、次期健康づくり計画を策定し、推進してまいります

佐久間委員	次期健康づくりに際しまして、今回の評価結果を踏まえましてご提言いただけたらと思います。
小西委員	たばこの推進として、喫煙もしくは禁煙のどちらで推進すべきだと考えますか？
事務局	国は喫煙領域として、その中に禁煙を勧める対策と受動喫煙を防止する対策を取り入れています。喫煙ゼロを目標に掲げておらず、禁煙を高らかに前面に押し出して健康づくりを進めることはまだ困難な環境だと思われます。ただし、本当に守りたい女性や子どもの受動喫煙は健康被害として捉え、また、喫煙の権利がある大人が「やめたい」という時に相談できるようにしております。
小西委員	奈良市が進める健康づくりとして、禁煙を表に出すことがあってもよいのではないかと

佐久間委員	<p>も思います。喫煙する人は分煙を心がけて、まちでも喫煙する権利を保障する上で、全体としては禁煙しましょうということも考えてもよいのでは？</p> <p>ひとつの特色として次期計画への申し送り事項としてご検討いただきたいと思います。</p>
酒井委員	<p>今後の方針ということで、子どもたちが大きく成長する過程である小・中・高の時期の教育が非常に重要と思っています。我々も校医として取り組んでいます、なかなか難しいとも感じています。奈良市の学校教育として、紙面に載るような啓蒙活動やご指導はお考えでしょうか。</p>
亀井氏	<p>教育委員会では、向こう 10 年間の奈良市が目指す教育の姿・施策として「奈良市教育ビジョン」を平成 21 年に策定しています。基本目標として「豊かな心とたくましい体を教育ではぐくむ」と掲げています。具体的には、こども 1 人ひとりが望ましい生活習慣を身につける、健やか心身をはぐくむ、自他の生命と体を大切にする子どもを育てるなどを基本方針として、それを実現するために調査研究や研修を勧めています。同時に、研究団体の事例を学校に紹介し、実践していただけるよう並行してやっています。</p>
佐久間委員	<p>今回は、最終評価報告書には学校教育の反映が少なかった印象があります。次年度に向けては、取り組む健康づくりとして強調されていますので、新たな展開ができてくるのかと思います。県も市も、特に青少年の社会的課題もあって、心身の健康という観点からも今後、学校と連携をすすめていかないといけないのではないかと個人的な意見で思います。</p>
福岡氏	<p>最終評価報告書に行政・関係機関の取り組みが○で示されていますが、学校教育課の取り組みが非常に少ないように感じました。助産師会などが学校で教育を実施している実情を思うと、学校という現場で実施していることですから学校教育課も取り組んでいることとして、○がつくべきだと思います。市と教育委員会は組織が違うのかもかもしれませんが、一緒になって取り組んでいただきたいと思います。</p>
事務局	<p>一生のライフステージのうちで学童期だけをみると、割合は少なく見えるかもしれませんが、タバコや助産師会との連携で性の取り組みなどを実践されています。</p>
永田委員	<p>小学生から大学生まで依頼に基づき、性教育やタバコ、自分の体を知るなどの内容で講義をさせていただいています。これは学校教育課からではなく、学校や PTA からの依頼で行っていますが、実施した学校は例年化しておりますので、今後もさらにご活用いただければと思います。</p>
山口氏	<p>幼児期の食育について帝塚山大学の天野先生のもとで研修会をしている。取り組みにあたって、事前に幼児期の子どもをもつ保護者にアンケートをとっています。しかし、断られることも多いです。ボランティア個人でも難しい点がありますので、行政からのちょっと一言の協力をお願いします。</p>
佐久間委員 中野委員	<p>では、続いて順番に委員一言ずつ、次期計画についてご意見をお願いします。</p> <p>地域教育課でも子どもの居場所づくりとして、放課後子ども教室を実施されていますが、「子どもを育てるのは、地域・学校・家庭として」われわれは地域でできることとして、本の読み聞かせしたり、折り紙をしたり、運動や遊びを取り入れたりしています。当然、その中で地域での子どもと高齢者のつながりもできます。また、今年度は奈良市の子どもの体力が低いことから、年間 10 回軽スポーツを体験してもらっています。グラウンドや体育館など広いところで走りまわっている子どもたちの姿を見ると、本当に普段運動が少ないのではないかと思います。うまくリードしてやれば、体力もあがってくるのではないかと思います。そうやって、場を作ってあげることで、子どもたちが楽しく</p>

安全に遊びたくましく育ってくれればと思います。

佐久間委員

現状を踏まえての次期計画についてのご要望だと思います。

神田委員

「こどもから高齢者に至るまでの健康づくり」というのは公民館の大きなテーマとして各々の公民館で実施できるように位置づけています。次期計画の地域全体で取り組むというのは、地域・家庭・学校・ボランティアとの連携となりますので、公民館としてもみんなで取り組む健康づくりを大きなテーマとして取り組んでいきたいと思っています。

佐久間委員

先ほどご意見も頂きましたが、次期計画への展望として一言お願いします。

亀井氏

健康づくりは家庭だけに任せることはできない現実があります。だから学校教育の範疇は非常に大事な部分として捉えています。学校教育課でも様々な領域で取り組んでいます。目に見えない取り組みがたくさんあるかと思っています。奈良市の教育ビジョンとあわせ、健やかな心身の形成に今後も取り組みを進めていきたいと思っています。

福岡氏

栄養士会は地域での支援としては、福祉センターに来られる保護者に離乳食や幼児食の講習会を実施しています。現在は、一箇所のみですが市内全福祉センターでできればと思います。人員の課題もあり、今すぐには実施が困難ですが、常に相談できる場となることが理想です。また、全体的に奈良市は非常に教育に熱心の方が多く、塾通いなどで子どもが集まる機会が少ないため、体を動かして遊ぶことが少ないように思います。働き世代は社会的な問題で個人で生活行動を変えることができるような環境ではないように思います。アプローチしても実際の生活で活かされないのが現状です。職場での健康診断など、そのような機会に働きかけることができればと思います。若人は朝食を摂るよりも少しでも寝ていたいという現状です。そういう現状が少しでも良い方向に向かえばと思います。

小西委員

計画の位置づけを図に示し、その中で教育委員会の位置づけを示すと教育委員会での取り組みもわかりやすいのではないのかと思います。また、学校で取り組んでいる事実をどう紙面に載せるかも検討してみてもよいのかと思います。また、第二章の10年間のデータの考察を入れてもらえたら、次期計画に繋がるのではないかと思います。指標項目についても、データの出所を一つずつ示すことで、信憑性が高まると思います。次期計画では、奈良市は「健康づくりによってまちづくりをしていきます」などと計画のイメージを打ち出し、そこから様々な関係機関が集まって取り組んでいますと具体的な取り組みを示せばよいのではないかと思います。

佐久間委員

データの示し方については、資料価値を高くして残すのか、万人に見やすい資料として残すのか意見が分かれる部分かと思っています。資料としては十分に揃っておりますので、それを誰に返すのかという視点で検討が必要だと思います。

青山委員

歯の健康に関しては、現状を維持して頑張りたいと思います。他は特に申し上げることはありません。次期に関して、これ以上にデータを良くしていこうと思うならば、奈良県地域巡回指導もご活用いただきたいと思っています。奈良県が主体で広域連合が母体となっていて、各市町村から要望があれば各地区のご高齢者のサロンに出向き、歯周病の講演や検診を行っています。奈良市からは一度もオーダーがありませんが、健康増進課だけで頑張るのではなく、他関係機関と連携して頂きたいと思っています。そうすれば、データもより改善が見込めると思います。昨年8月には歯科口腔保健の推進に関する法律が国会で成立しましたが、奈良市とタイアップして事業の立ち上げもできるかと思っています。

酒井委員

壮年期の食生活を中心とした健康管理をどうするかとして、職域への介入は非常に難しいことですが非常に重要ですので、紙面に表わされる計画づくりをしていただきたいと思っています。

<p>事務局 酒井委員</p> <p>佐久間委員</p>	<p>また、学童期の10年は短い期間ですが非常に重要な変化する激動の10年ですから、次期として紙面の上では健康増進課に無いデータを載せるのは難しいですが、取り組みは示していただきたいと思います。</p> <p>最後に確認ですが、「健康格差」というのは国が示している言葉ですか？</p> <p>次期国民健康づくり運動の目標として「健康格差の縮小」が設定されています。格差をなくすという、上の人を引っ張りおろすイメージだったので言葉として違和感を感じますね。国として示しているので仕方がないですね。</p> <p>次期計画を含めていろいろご意見を頂戴しましたが、頂いたご意見を参考に次期計画に取り入れていただきたいと思います。一般的に何かを進めようと思うと、「人・もの・お金・情報・マネジメント組織」が不可欠になります。社会的な状況を見ると「ものとお金」は難しく、どうにかお金をかけずに「人」を中心として、「情報」は皆様方のお知恵を頂戴しながら進めていくことが出来るのではないかと思います。マネジメント組織としての事務局もかなりの労力を費やすかと思いますが、奈良市の発展のためにはご尽力をいただきたいと思います。そして委員の方にも今後ご意見を頂戴いただければと思います。</p>
<p>3 今後について</p>	<p>次期計画に向けて貴重なご意見をいただきましたが、次期計画の市の具体的な作業の進め方等はこれからになりますので、本日の多くのご意見を参考にさせていただきたいと思います。平成 25 年度からの計画は、現行の計画と継続性をもって整合性を図る必要があると思います。作成にあたりましても、委員の皆様には、今後もお知恵・お力を拝借させていただくことになるかと思っておりますのでどうぞよろしくお願い致します。</p>
<p>資料</p>	<p>【資料1】奈良市 21 健康づくり 最終評価報告書(案)</p> <p>【資料2】奈良市 21 健康づくり 最終評価概要版(案)</p>